

2005年度は2004年度1名の退職に伴ない4月より1名採用、12月以降に済生会熊本病院からの派遣技師の異動に伴なう業務引継ぎのため1名採用、生理検査業務件数拡大と検体検査カバーリングに伴なう1名増員により、現在、検査室を構成する検査技師は、検体部門2.5名、生理検査部門3.5名の計6名で運用している。

【検体検査】

1. オーダーリングシステム導入

熊本病院から移譲した開院からの検査システムの老朽化に伴ない、年度末にオーダーリングシステムの導入を行った。医師、看護部を始めみすみ病院スタッフ、熊本病院の情報システム室の協力のもと、当初想定した大きなトラブルもなく順調な滑り出しとなった。今後は新しい検体検査システムとオーダーリングシステムの導入を活かし、臨床へのより高度なサービス提供と業務の効率化を図っていきたい。

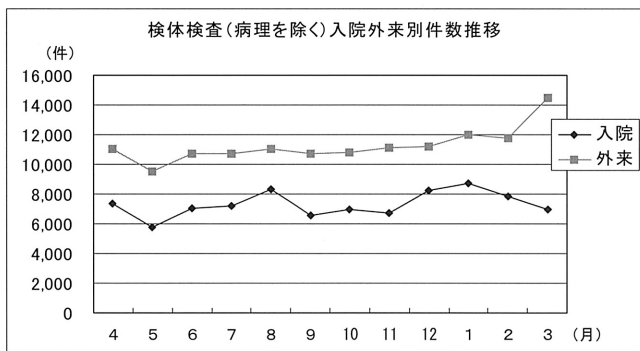
2. 感染管理

細菌培養の結果について週報、月報をまとめ感染管理医へ提出。感染管理委員会で報告を行っている。また2005年度から2006年度にかけて東京で行われているICS 養成の為の感染管理講習会に参加している。今後、医療現場で発生する問題に対処できるよう、院内感染対策チームの一員として役立てていきたい。

3. 情報の提供 (NST・高脂血症のリスト)

NSTと高脂血症に関する検査データを抽出し毎日各科へ報告書を配布している。

また、各病棟のNST回診に最新のデータを提出し、参加している。



【生理検査】

超音波検査件数は2004年度同様、件数的にはほぼ横ばい傾向であった。超音波検査依頼の紹介外来患者数も増加し確立されつつあるが、超音波機器の台数不足によるハード面での午前中外来患者数受け入れの限界も見えてきた。

生理検査依頼件数での外来の占める割合が75%であり、その殆どが午前中に集中している。様々な対策はとっているものの、より根本的な効率化への解決策が今後必要と考えられ

た。

1. 学術活動

日本超音波医学会・九州地方会での発表を行った。院内においては2ヵ月に1回で院外向けのおれんじ勉強会を行っている。

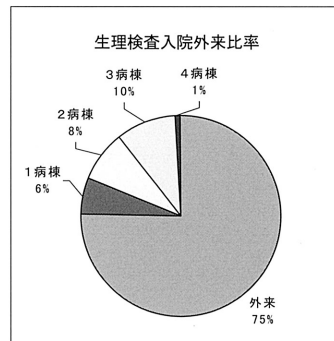
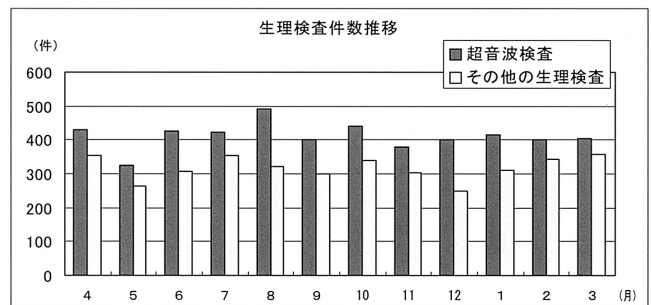
2. 検査室からの情報発信

【患者向け】

検査をすることに対する意義の理解と不安感の払拭を目的に、検査内容をより分かりやすく理解できるようにパンフレット作成に取りかかった。まず2005年度はMRI 脳検診に合わせて、頸部血管エコーについてのパンフレットを作成した。今後はすべての検査に対応するパンフレット作成を行っていく予定である。

【院内スタッフ向け】

検査室ニュースの発行を開始した。検査室からの業務情報や勉強会、イベント等の情報発信、そして他部署とのコミュニケーションをとるためのマテリアルとして役立てていきたい。



【今後の展望】

来年度は業務における検体検査、生理検査というセクションリズムの緩和を目指し、お互いの業務状況が把握出来るように検査室のレイアウト変更を行う予定である。また、生理検査室においては、超音波検査件数に対応する為にも新規に超音波機器導入を行う予定になっている。